

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人白阪武の上告趣意中、憲法一四條違反をいう点は、原審において主張および判断を経ておらず、憲法三六條違反をいう点は、実質は量刑不当の主張であつて、いずれも刑訴法四〇五條の上告理由にあたらない。また、記録を調べても、同法四一一條を適用すべきものとは認められない。

よつて、同法四一四條、三八六條一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和四八年三月二九日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	岡	原	昌	男
裁判官	村	上	朝	一
裁判官	小	川	信	雄
裁判官	大	塚	喜	一 郎